

# 教育センター通信

第3号(通算 130号)  
令和7年6月30日

三条市教育委員会  
教育センター発行

ほ  
ど  
火床の火の心を紡ぐ

小中一貫教育  
トップページ



## 学級目標を機能させる言葉掛け

学校教育課 統括指導主事 外山 良史

4月2日にWEBQU研修を行い、講師の元早稲田大学客員教授 伊佐 貢一様より、どんな学級にしていくか子どもと話をし、学級目標を決めてもらいたいという話がありました。各学級がそれぞれの目標を設定したと思いますが、その目標をどう活用していますか？例えば学級目標に「みんなが輝く」というワードが入っていたら、どんな言葉掛けを子ども達にしていきますか？

「みんなが輝く」とはどんなことでしょうか。子どもはどんなイメージをもっているのでしょうか。「自分の役割を頑張る」「困っている人がいたら助ける」など様々な姿をイメージしていると思います。また、教師もイメージをもっていると思います。このイメージの共有が大切になります。そして、休み時間に黙々と係活動に取り組み、学級目標の達成に向けて行動する姿を見つけたら「学級目標にある姿ですね。ありがとう。」と声を掛け、クラスでも紹介するのではないのでしょうか。そんな、子ども達の姿を認め、クラスに広げることで、子ども達の中に学級目標達成に向けた具体的なイメージが共有されていきます。また、そのような言動が認められることだと価値付けられていきます。さらに、「先生はきちんと見てくれる」という安心感にもつながります。逆に、子ども達の学級目標達成に向けた言動を、当たり前な行動として価値付けずいたらどうなるのでしょうか。子ども達の、輝くための言動は広がることはないでしょうし、どんどん少なくなってしまうのではないのでしょうか。先生は見えてくれない、認めてくれないと不安な気持ちが膨らんでしまう可能性もあります。

学級目標は子ども達とともに1年間かけて目指していく大切なゴールです。子ども達の目標達成の意識を高めて、主体的な姿が見られるようになるか、形だけで終わってしまうかは、教師が意図的に声を掛けていくかどうかで大きく変わってきます。大切な学級目標が飾りにならず、子ども達の成長に向けて機能するものになるように、子ども達を認め・励ます言葉掛けを全教職員で意識して発してください。

## 学園紹介

### 三条学園

5月19日(月)に総会・春の全体研修会を行いました。学園の職員が裏館小学校に集まり、推進計画を確認、共有しました。今後は地域と連携したあいさつ運動などとおして、自分と地域のつながりを実感しながら未来を切り拓く学びを充実させていきます。また、5月24日(土)には、上林小学校出身の第三中学校の1年生、14人が母校の運動会ボランティアに参加しました。用具係や6年生の徒競走のスタート補助などで、一生懸命に取り組む後輩たちを優しくサポートしました。中学生が小学生の名前を呼んで応援している姿から、これまで培われてきた絆を感じました。閉会式の感想発表では、中学生が、「中学校でみんなを待っているよ。」と小学生に話してくれました。心温まる交流ができました。



総会・春の全体研修会 5月19日



運動会ボランティア 5月24日 上林小学校

### 瑞穂学園

5月15日(木)午後小中学校の教職員が集まり、第1回瑞穂学園職員研修会を実施しました。研修会では、今年度の小中一貫教育について知・徳・体の各部会から研修内容の方向性を発表し、研修を推進していくことを確認し合いました。また、職員交流では、教科部会を行い、一人一実践の計画と小中で授業参観し合うことを確認しました。さらに、小中一貫教育についてグループごとにテーマに合わせて交流をしました。①小中一貫教育について考えていること、②小中学校の教職員が9年間のカリキュラムを意識した指導を行うためには、③自己開示、の3つのテーマで意見交換を行いました。互いの考えていることなどを、お茶やお菓子を交えながら和気あいあいと交流を深めました。



瑞穂学園職員研修会 5月15日 本成寺中学校

## 大崎学園

5月21日（水）、双華会総会（生徒総会）が行われました。5年生から9年生が参加し、充実した学園生活を送るために1年間の生徒会活動について審議をします。学園生はタブレットで議案書を見ながら真剣な表情で総会に参加しました。前期後期それぞれの委員長の決意表明も力強く行われました。また、5月24日（土）、前期課程体育祭が開催されました。特徴として、後期生の応援があります。前期生は、交代で見学に来る後期生の応援にパワーをもらい、後期生は前期生のがんばりやかわいらしさにエネルギーをもらいます。

この2つの行事に大崎学園の合言葉「ワンチーム」・「大崎プライド」の姿が現れています。



双華会総会 5月21日



前期課程体育祭 5月24日

## 外国語指導力向上研修①(小・中)

令和7年5月30日（金）開催

三条市の小学校英語専科教員3名を講師に、小中連携の視点で研修を行いました。一ノ木戸小学校 吉澤 崇 先生からは、「他校とのオンライン交流」の実践と授業でのChat GPTの活用やデジタル教材について、嵐南小学校 福浦 明子 先生からは、「小学校高学年におけるパフォーマンステストの実践」とすぐに使える「3ヒントクイズ」「キーワードゲーム」や練習活動について、大崎学園 八幡 智子 先生からは、「後期生による前期生への授業サポート」の実践と子どもをひきつける新出語句の導入活動や会話の練習活動について御紹介いただきました。小学校（前期課程）の先生にとっては、新たなアイデアを獲得する機会となり、中学校（後期課程）の先生方にとっては、小学校外国語の実態を理解する機会となりました。また、3名の発表をうけ、学園ごとに小中連携の取組や連携方法について意見交換を行いました。外国語活動・英語における小中連携の取組を推進する一助となればと思います。



## 特別支援教育研修①

令和7年5月27日（火）開催

長岡市教育委員会 子ども家庭センター 古田島 恵津子様を講師に「学びのユニバーサルデザイン研修」を実施しました。「学習ができない理由は子どもにあるのではなく、自分の授業に問題点はないか」「自分がよいと思っていることが全員によいわけではないことを自覚すること」等の御示唆をいただき、授業づくりについて具体的に御指導をいただきました。参加者は、自身の日頃の授業を振り返り、授業改善への意欲を高めました。



### 【参加者感想抜粋】

- ・研修を通し、UDLに基づく授業がどのようなものなのか、イメージすることができました。これまで授業を行う上で、子どもの主体性を大切にしたいと思いつつ、教師主導の授業になりがちでした。今後は、「子どもに任せる時間」や「子どもに選択させる機会」を設け、子どもが「学びたい」「知りたい」と思える授業づくりを行っていきたいです。
- ・自分の授業スタイルや子どもの様子などを思い浮かべながら研修を受けました。新しい視点や自分の授業のバリエーションを考えることができ、たくさん学ぶことができました。
- ・「授業のゴールを決めて、そのゴールにたどり着くための方法をいくつか用意する」「表現の方法を選択できるようにする」ことを少しずつ授業に取り入れていきたいです。

## 小中一貫教育マネジメント研修

令和7年5月16日（金）開催

各学園での小中一貫教育の取組の見直しと更なる推進を目的に、各学校の小中一貫教育コーディネーターの先生方からお集まりいただき研修を行いました。研修内容は、4月の校長対象研修会、5月の教頭会でお話した、三条市の小中一貫教育と令和7年度の重点施策についてです。「**原点帰還と再創造**」を合い言葉に、管理職とともに、各学校の小中一貫教育の中心となるコーディネーターから内容を御理解いただき、各学校での取組に活かしてもらおう機会としました。研修の後半では、各学園ごとに、「コーディネーターとして、小中一貫教育の更なる充実に向けてできること」をテーマに情報交換と連携について共通理解を図りました。最後に全学園から話し合った内容を発表してもらい、アイデアの共有を行いました。参加者からは、「小中一貫教育をさらに推し進め、再検討していく時期になったのだと強く感じた。自校で働きかけていきたい。」「カリキュラムと指導の構想の意義がようやく理解できました。管理職や教務主任だけでなく、この話を全職員が聞けるといいなと思いました。」「他校の職員と検討することは、学園内とはいえ、受け取り方に違いや熱意に差があることが分かって参考になりました。他学園の取り組みは非常に参考になりました。」などの感想がありました。

